12/25 東新

16年度予算案

防衛費 5兆円超え

当初単独で 安保法 武器ほぼ満額

二〇一六年度予算案で防衛費は五兆五百四十一億円となり、当初予算案単独で初めて五兆円を超えた。直前に決定した一五年度補正予算案と合わせると五兆二千億円を上回る。来年三月までの安全保障関連法の施行をにらみ、防衛省が要求した最新鋭の高額な武器購入費はほぼ満額回答。防衛予算の聖域扱いが続く。

一六年度の防衛費は前年度より七百四十億円（1・5％）増え、当初予算としては昨年に続き過去最高を更新した。減少傾向が続いていた防衛費は安倍政権の発足で一転し、増加は四年連続となる。

直前の十八日には一五年度補正予算案も決定。中身は本来なら当初予算案に計上されてもおかしくない軽装甲機動車三十八両購入など、当初予算案と一体性が強い。合わせると五兆二千五百七億円。中期防衛力整備計画（一四～一八年度）では、年度平均の予算は米軍再編費などを除き上限四兆七千九百四十億円になる計算だが、これを約四千五百億円も上回る。

当初予算案の内容では、安保法に基づく自衛隊の活動拡大に利用できる高額武器の購入が目立つ。

最新鋭のイージス艦は、安倍晋三首相が他国を武力で守る集団的自衛権を行使する典型例に挙げた弾道ミサイル防衛の共同対処や、米艦防護が可能。新空中給油機KC46Aは幅広い米軍機への空中給油ができ、米軍への支援拡大に対応する。哨戒ヘリコプターSH60Kは、平時の偶発的な攻撃に対する米艦防護に能力を発揮する。

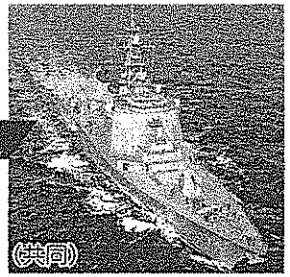
垂直離着陸輸送機オスプレイは、要求時の十二機一括契約でなく四機となったが、一八年度から年四～五機ずつ取得する計画に影響はない。滞空型無人機グローバルホークも、組み立て費を除く三機分の部品は全額計上。予算化されなかったのは、機種の選定が間に合わなかった海上自衛隊の多用途ヘリコプターくらいだ。

防衛省幹部は「第二次安倍政権発足前は削減されるものもあった。ここ数年は優先されている」と話している。

（横山大輔）

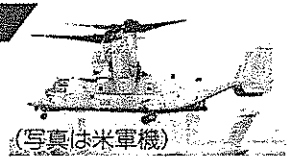
2016年度防衛費に盛り込まれた武器購入の一部と安保法

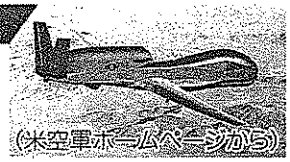
計上額	要求額	安保法との関連性
イージス艦		
1734億円（1隻）	1675億円（1隻）	弾道ミサイル共同対処と集団的自衛権の行使
新空中給油機 KC46A		
231億円（1機）	要求当時未定	米軍の戦闘に対する支援の拡大
哨戒ヘリコプター SH60K		
1026億円（17機）	1032億円（17機）	平時の警戒監視強化や米艦防護
垂直離着陸輸送機オスプレイ		
447億円（4機）	1321億円（12機）	朝鮮半島有事での隊員輸送など
滞空型無人機グローバルホーク		
146億円（部品など）	367億円（3機）	平時の警戒監視強化や米艦防護


（共同）

（写真はKC767、航空自衛隊提供）

（海上自衛隊提供）


（写真は米軍機）


（米空軍ホームページから）